



洋上アルプス

No.266 平成29年5月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



着任のあいさつ

4月1日付けの人事異動により、九州森林管理局森林技術・支援センターから屋久島森林生態系保全センターに着任しました古市真二郎です。

鹿児島港から宮之浦港に向けて出港の際は、「悪天候のため引き返す条件付出港です」とのアナウンスや、航海途中の激しい雨に不安も増しての赴任となり、早速雨多き屋久島の洗礼を受けたところです。

先日は、太鼓岩までの森林パトロールを行い、今までに見たことのない屋久杉の根株や苔むす森などの林相、外国からの入林者が多いことに圧倒されるとともに、太鼓岩からは雲一つない青空に映える宮之浦岳、翁岳、太忠岳や満開前の山桜を確認することもでき、世界自然遺産地域として適切に保全していかなければと、身の引き締まる思いがしています。

しかしながら、屋久島での勤務は初めてであり、森林植生、ヤクシカ、外来植物など、これから屋久島のことをいろいろ勉強しながら、森林にも多く足を運んで状況等も把握し、関係機関等と連携し、センターとしてできることをしっかり取り組んで参りたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

また、「洋上アルプス」についても、随時、取組の状況等をお知らせしますので、ご意見等いただきますよう引き続きよろしくお願い致します。



レク森転換期に質的向上を

— 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会開催 — (3月27日)

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会が屋久島離島開発総合センターにおいて開催されました。

議長の岩川屋久島町副町長は「二つの自然休養林の本町観光産業へ果たす役割は大きい。有意義な総会にして欲しい」とあいさつ。

来賓の樋口屋久島森林管理署長は「屋久島レクの森は今転換期にある。日本一のレクの森として質的向上の努力を」とあいさつ。

協議事項については、平成29年度活動計画案および一般・管理・特別会計各予算案等について提案があり、質疑では、ヤクスギランドにおけるガイドングのあり方、繰越金の扱い等の意見が出されました。

最後に協議事項を了承の後、屋久島レクリエーションの森の活性化に向け努力することを全体で確認し終了しました。



様々な課題を議論

将来の森林・林業担い手に期待！「長野県林業大学校」

(4月18日)

長野県林業大学校1学年の校外研修の一環として学生20名と職員2名が、屋久島の森林・林業を学ぶため昨年度に引き続いて屋久島森林管理署を訪れました。

はじめに、植薄森林技術指導官から屋久島の森林・林業の概要について説明を行い、続いて廣田森林整備官からヤクスギの歴史と現状について説明しました。

学生たちは、安房貯木土場に保管されている樹齢千年を超えるヤクスギ（土埋木）の存在感ある大きさや目が詰まった美しい年輪を見て、その品質の高さに驚いた様子でした。また、伝統工芸に関心を寄せたり、現在も走り続けている森林軌道の歴史にも興味を持ち、軌道の延長や現在どのような役割を果たしているかなどの質問がありました。

今回、屋久島の森林・林業について学んでいただきましたが、さらに研鑽を重ねてもらい、これからの日本の森林・林業を担う人材になってもらいたいと大いに期待しています。



ヤクスギ(土埋木)の説明風景

電殺器の導入で負担軽減

— シカの止め刺しに係る電殺器の試行 — (3月9日～10日)

捕獲シカの止め刺しに係る電殺器の試行について説明会が行われました。

屋久島では、ヤクシカの増加に伴い、森林植生の採食による更新障害、希少種の減少等が生じ、生態系への影響が懸念されています。このようなことから、ヤクシカの個体数管理のための計画捕獲の一環として、屋久島森林管理署及び屋久島森林生態系保全センター職員実行によるくくり罠の有害鳥獣捕獲の取り組みを進めています。

捕獲したシカは、刃物などによる止め刺しを行っていますが、動物福祉の観点や実行する職員の精神的な負担軽減のために電殺器導入を図り、今後、試行を進めていくものです。



シカ電殺器による実習

屋久島の外来植物 <ギンネム>

(銀合歡、学名：*Leucaena leucocephala*) マメ科のギンゴウカン属。

- ・高さ1～10m 常緑の低木～中高木 深根性 耐塩性 繁殖力大
- ・生育地：道路沿いの明るい場所や低地など（屋久島では、尾之間、船行、小瀬田で確認）
- ・花：ほぼ通年、白色で2～3cm球形／実：茶色
- ・ミモシンという有毒アミノ酸を若葉や芽に含有し、家畜が摂取し過ぎると繁殖障害等の弊害あり。
- ・IUCN：世界の侵略的外来種ワースト100リストの1種、外来生物法：要注意外来生物指定



大量の種子を付けたギンネム

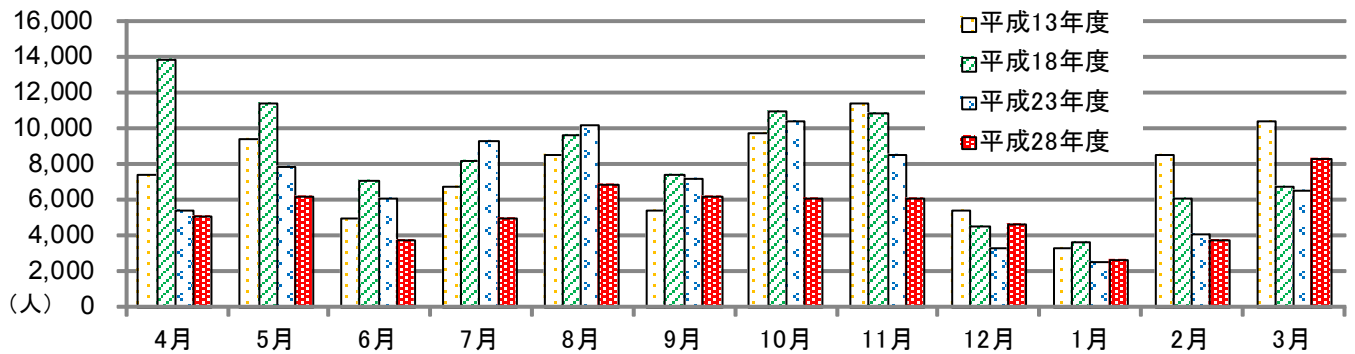


白いポンポンのような小さな花をつける

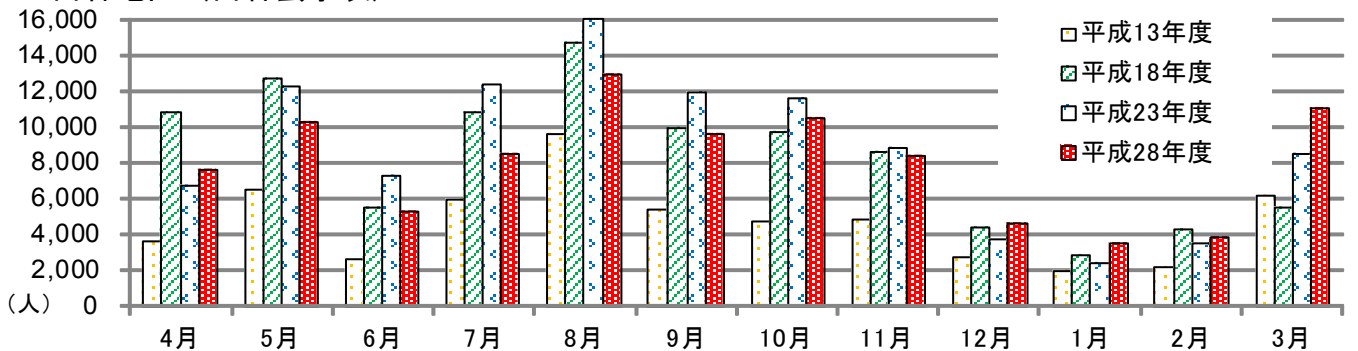
屋久島自然休養林 利用者数

*データは屋久島レクリエーションの森保護管理協議会による。

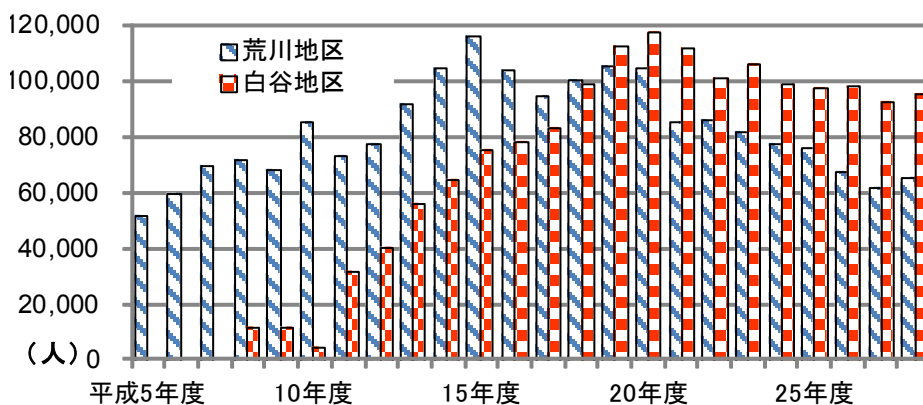
1. 荒川地区（ヤクスギランド）



2. 白谷地区（白谷雲水峡）



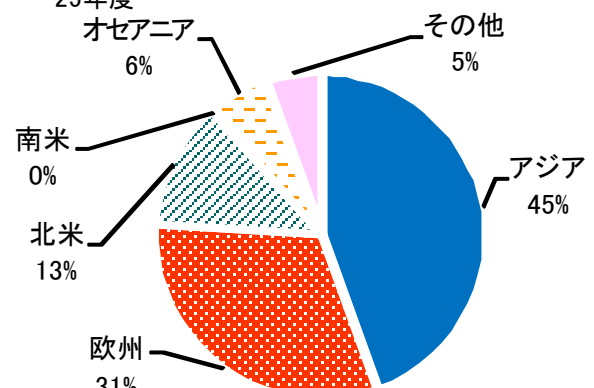
3. 年度別利用者数の推移



	荒川地区	白谷地区	計
13年度	91,326	56,318	147,644
18年度	100,186	99,047	199,233
23年度	81,368	105,695	187,063
28年度	64,841	95,355	160,196

4. 平成28年度 外国人利用者数（人）

	荒川地区	白谷地区	計
アジア	1,657	3,873	5,530
欧州	1,483	2,430	3,913
北米	609	949	1,558
南米	4	18	22
オセアニア	404	336	740
その他	151	524	675
計	4,308	8,130	12,438



屋久島の植物 ナンゴククマヤナギ（クロウメモドキ科）

九州南部からトカラまで分布するつる性の落葉低木。屋久島では低地から白谷雲水峡あたりまで見られる。花期は7月、果実は開花翌年の5～7月に熟す。はじめ赤色でやがて黒くなる。他の樹木の果実が熟す前なので季節的に目立つ。



屋久島北部等の植生垂直分布調査（平成27年度）

●標高580mプロット（ホソバタブーイスノキ群集）

シアンヌタ谷上流の沢を挟んだ複合斜面で、登山道「益救参道」沿いに設置。ホソバタブやヤブニッケイなどの常緑広葉樹、ヤクシマオナガカエデやエゴノキ、ヤマザクラなどの落葉樹が生育する広葉樹林。



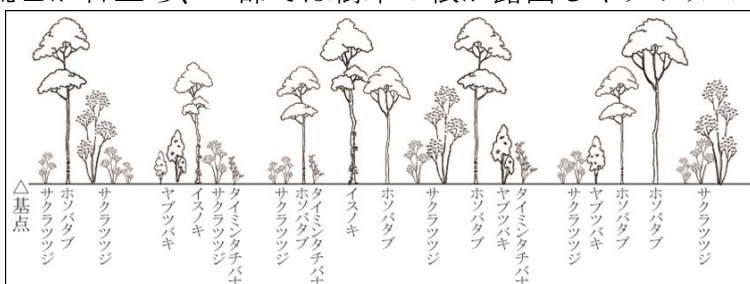
プロット付近の概況

【結果概要】

高木層、亜高木層として常緑広葉樹のホソバタブや落葉広葉樹のヤクシマオナガカエデなど、低木層としてイスノキやサクラツツジなど、草本層にはサザンカやヘラシダなどが生育。ヘラシダはヤクシカの嗜好性植物。調査地の低木層、草本層の植被率は低く、また表土流亡が目立ち、一部では樹木の根が露出しヤクシカの採食圧によるものと考えられた。

【草本層の変化とヤクシカ生息状況】

植被率は低い状態が継続している。同一小プロット内の出現種を比較すると、種数に変化は見られないが、構成種を見ると新たにホソバタブやイスノキ、バリバリノキの稚樹が確認された一方で、イヌガシやヒメシャラは確認されなかった。イスノキやイヌガシ等は生育が確認されたものの、ヤクシカの嗜好植物である。



群落配分図(横断面)

ヤクシカの生息状況によっては、採食される可能性があり、将来、森林更新に影響を及ぼす可能性が考えられる。

【過年度との比較】

H22調査では、その前のH17調査との比較として、ヤクシカの採食圧により低木・草本層の減少や不嗜好性植物の増加が確認されていた。今回の調査ではこれらが更に進行していた。H22調査と比較するとホソバタブ以外にヤブニッケイやヤクシマオナガカエデの生育が目立つ。

登山者へのマナー等を呼びかける

—— 「シャクナゲパトロール」を計画 ——

ヤクシマシャクナゲの開花時期を迎え、屋久島森林生態系保全センターでは、例年、登山者が多くなる時期に合わせ、屋久島森林管理署と協力し「シャクナゲパトロール」を計画しています。

本年は、5月22日（月）～6月2日（金）の間で計画し、高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。今年は、3月期の低温期もありましたが、これから開花を迎えるつぼみも見られます。楽しく登山するには怪我なく安全に歩くことが大切です。この屋久島の雄大な自然に触れていただければと思います。

～雨が多い時期ですが、楽しく過ごしましょう～

